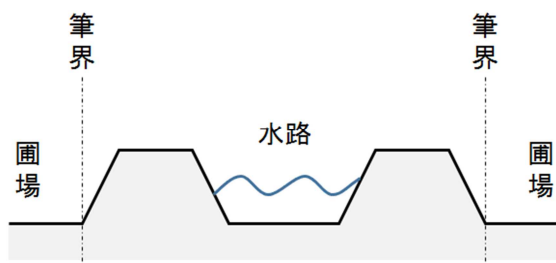


よくある筆界の確認方法

紹介する筆界は一例です。部落の協定で異なることがあるため、必ず立会か、代理人に委任する方法で筆界を確認してください。

1 農地・畔の筆界



かんがい用水路と農地との筆界は、両側に泥揚地がある場合は、泥揚地ののり尻を筆界とするのが通例です。(図1)

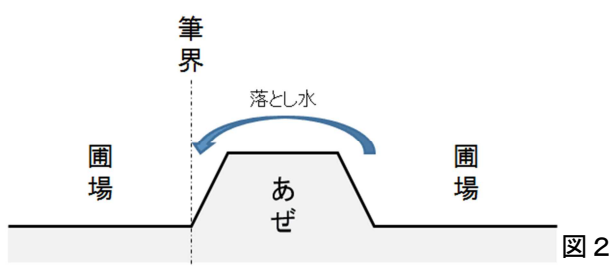


図2

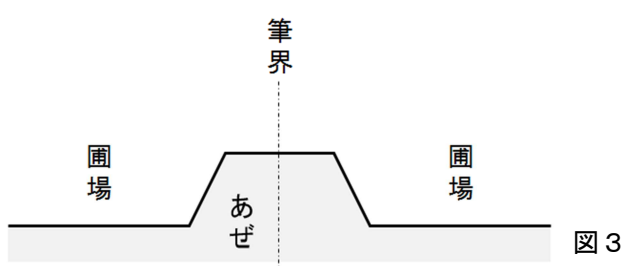


図3

高低差のない農地間にあるあぜは、落とし水の関係がある場合は、落とし水を落とす田の所属とします。(図2)

そのほかの場合はあぜの中央を筆界とするのが通例です。(図3)

2 宅地の筆界

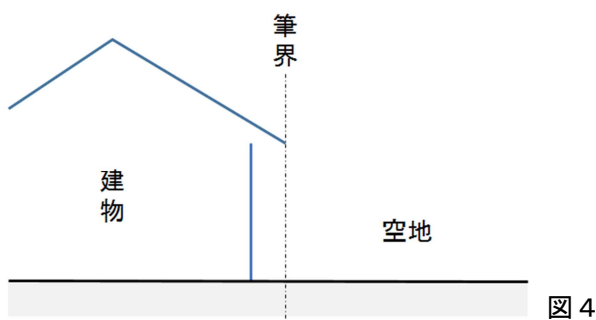


図4

建物の反対側が空き地で、明確な筆界がない場合は、軒先の先端を筆界とすることがあります。(図4)

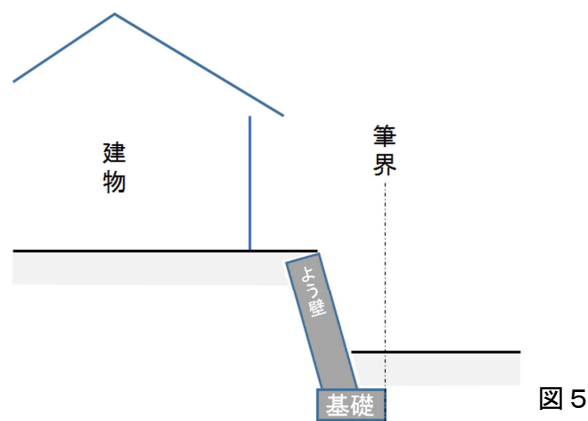


図5

よう壁で隣接しており、よう壁下に溝がない場合は、よう壁下端(基礎面)を筆界とするのが通例です。(図5)

3 官有地と民地の筆界

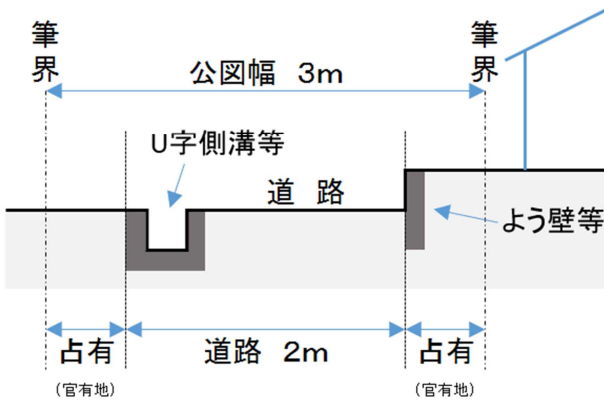


図 6

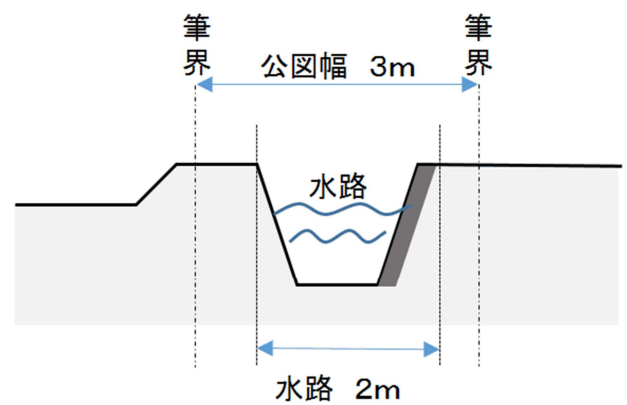


図 7

赤線(道路)や青線(水路)の公図幅に対して現況の幅が狭い場合は、公図の幅を赤線や青線とするのが通例です。(図 6、7)

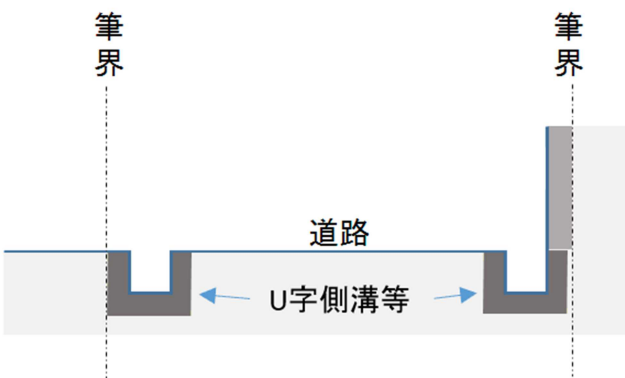


図 8

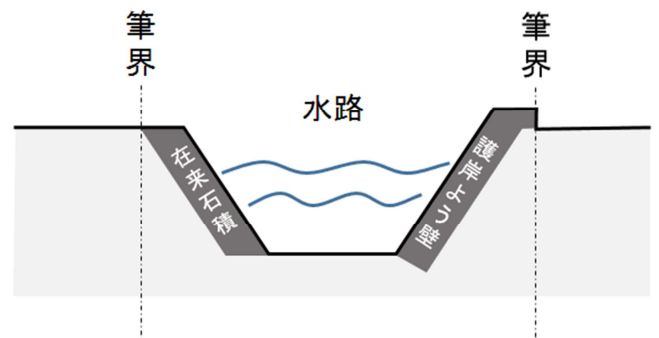


図 9

道路側溝や水路護岸ブロックを公共機関が施工した場合は、施工した構造物までは道路や水路に含まれることが通例です。(図 8、9)

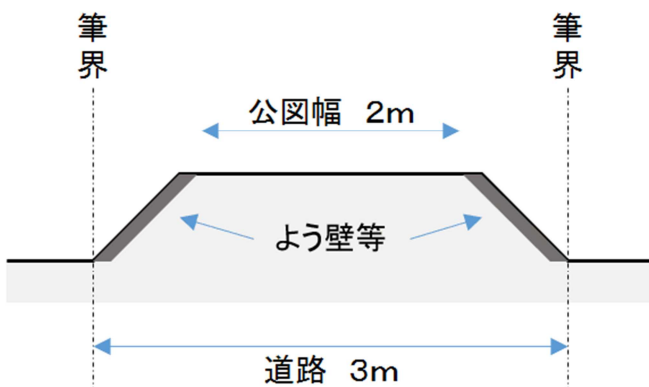


図 10

赤線(道路)の公図幅に対して現況の幅が広い場合は、現況道路幅を赤線とするのが通例です。(図 10)